

水源の里 坊口

A to Z

水源の里 坊口 AtoZ

発行日 2026年3月31日

文・写真 京都産業大学現代社会学部 滋野ゼミ

安田和奏

宇田和沙

原田崇弘

坂本蓮奈

須和栄心

中川颯太

中村優斗

田中芹奈

湯ノ口大斗

神保皓介

長谷川颯汰

デザイン 意匠房

協力 水源の里坊口

滋野浩毅(京都産業大学現代社会学部教授)

写真提供 水源の里坊口、綾部市定住・地域政策課

発行 あやべ水源の里連絡協議会



MESSAGE

この冊子は、大学生たちが水源の里坊口を訪れ、見たこと、聞いたこと、感じ取ったことを抽出し、それを集落の方々と対話を重ねながら、理解を深め、AからZまで26のキーワードとして表したものです。

坊口町の魅力は、山と谷が織りなす美しい里山の風景と、集落みんなで地域の文化を守り継いでいることではないでしょうか。コウノトリが飛来する田んぼ、岳山の眺め、お祭り、紅葉…数えたらキリがないほどの魅力あふれる集落です。

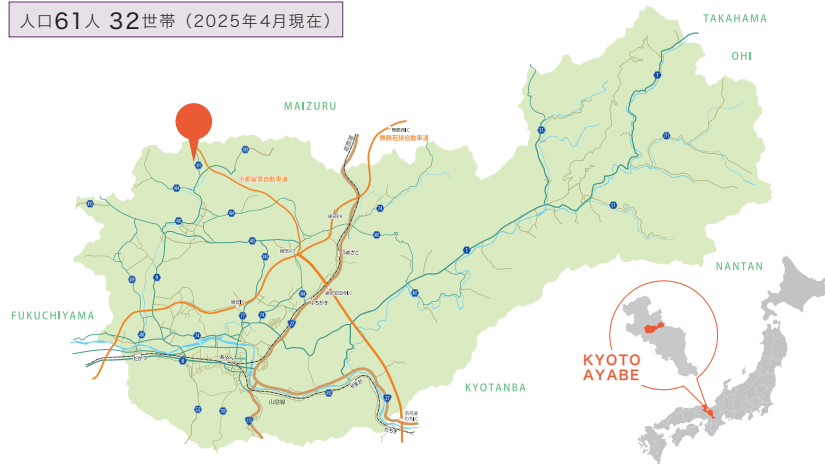
そんな魅力を詰め込んだ「坊口AtoZ」。ぜひ手に取っていただき、足をお運びくだされば幸いです。きっと坊口町に魅了されることでしょう。

ABOUT ～坊口について～ 坂根 隆志（水源の里 坊口代表）

坊口町は自然豊かな農業地域ですが、近年鹿や猪の獣害に悩まされながらも水稲や野菜の作付をしています。当地区には古くから大切に守られてきた観音様が有り、春と夏のお祭りに併せ、イベントを行い住民や他の水源の里との親睦を図っています。



人口61人 32世帯（2025年4月現在）



- 春** 春には桜が咲き、お祭りに合わせ花見を行い、カラオケやビンゴゲームで賑わいます。
- 夏** 夏は観音様の夜祭りや、焼ソバや焼鳥などを振る舞っています。
- 秋** 秋は稲穂が黄金色に輝き、山々の紅葉が美しいです。
- 冬** 冬には雪が降れば一面の銀世界。ドカ雪に悩まされることもあります。

**A**

Anzan
安産

坊口町竹本に位置する観音堂の観音像は「坊口の観音様」として親しまれ、安産のご利益があるとされています。坊口町には長松寺というお寺もあり、そこでもご本尊に安産を祈願することができます。

**B**

Benzaiten
弁財天

盆地の一角に小さな池があり、その中に石垣を結い、橋を渡し弁財天が祀られ、古寺の跡として残されています。かつて大山火事で失われたご本尊は、人々の探索と弁財天への祈願によるお告げによって所在が判明したと伝えられます。

**C**

Choshoji
長松寺

創建は1181年。1557年の戦いで焼失後、1568年に曹洞宗のお寺として再建されました。その後も大火に見舞われながらも1736年に再建され現在の姿になっています。綾部西国三十三観音霊場の第21番札所である他、本尊の聖観音坐像の胎内には白鳳時代のものといわれる聖観音立像が納められています。

**D**

Dake
岳

坊口町の岳は、かつて「岳・丈・長」と書かれ高いところを意味する地名です。比較的小さい岳ながら山頂には「七丘七岳」と呼ばれる大きな盆地があり、豊かな水源を育む地域の自然を象徴する場所です。

**E**

E-ju(lju)
移住

坊口町は移住者が多い地域です。現在、Uターンで来られた10家族が暮らしています。移住の魅力やきっかけを伺うと、「里山風景が気に入った」「人の縁があった」とのこと。地元住民も、移住者も共に集う姿が印象的です。

**F**

Fire
火の神

坊口町の人たちとの話の中で、「山の神さん」「水の神さん」「火の神さん」といった言葉がたくさん出てきました。「火の神さん」と言えば愛宕さん。公会堂、観音堂と並んで愛宕神社が鎮座しています。かつて岳山にあったお寺から現在の場所に移されました。

**G**

Green 緑

山と森が広がり、四季を通して目に優しい緑が続き、豊かな自然に包まれています。春は若葉が芽吹き、秋には紅葉が山を鮮やかに彩ります。季節ごとに変わる色が美しい景観をつくり出しています。

**H**

Hidamari 陽だまり

地元有志により地域で行う交流の場で、足湯や季節の行事、体操や紙芝居など、誰でも気軽に参加できる活動が行われています。自然に包まれながら人が集い、世代を超えてつながりが生まれる、温かな地域の「陽だまり」です。

**I**

Ichiiwaratoge 市原峠

市原峠は、旧丹波国と丹後国の国境にあり、市原峠を境に北は福知山市大江町市原です。昔は、この峠が地域同士を結ぶ場所であり、丹後の由良と交易をしていたことや、峠の南北で人々の結びつきもあったそうです。

**J**

Jukan-do 京都縦貫道

京都縦貫自動車道は、京都府を南北に縦貫する「京都の背骨」で、坊口町内を貫くように通っています。工事に際して発掘作業が行われ、山尾古墳が発見されたことでよく知られています。

**K**

Konotori コウノトリ

「幸せを運ぶ鳥」として知られるコウノトリは、ここ坊口町でも営巣が進んでおり、田んぼなどに飛来する姿を目にすることができます。保護活動の成果により、毎年ヒナの誕生が確認され、地域の象徴として大切にされています。

**L**

Lokujizo 六地藏

公会堂脇には、六地藏が静かに並びます。社は地元の大工さんによって35年前に修繕されましたが、住民による掃除、献酒、献花などの長年の手入れの甲斐もあり、一度も壊れることなく大切に守り続けられました。

**M**

Mountain
山の神

山を司り、自然の恵みや安全をもたらすとされてきたのが「山の神」です。水や木々、動物などを守る存在として敬われ、山仕事の安全祈願や農作物の豊作祈願の対象となっています。神様が山に戻って来るよう祈る「山の神」の期間は子どもは何をしても怒られないとされ、とても楽しい日々だったそうで、今でも続けられています。

**N**

Nomen
能面

南北朝時代に由来し、阿須々岐神社秋の大祭で使われてきた坊口町の文化財です。他の集落と持ち回りによる太鼓や太刀振りなどが奉納され、坊口町が奉納するのは「能舞」と子どもによって行われる「花の踊り」です。現在は地域の歴史と伝統を伝える重要な遺産として保存され、多くの人々に親しまれ、大切に守られています。

**O**

Omatsuri
お祭り

春と夏に行われる「観音祭り」と呼ばれるお祭りがあり、地域文化の伝承と住民の交流の場となっています。金魚すくいやスーパーボールすくい、豚汁やかき氷などの屋台を出し、子どもからお年寄りまで幅広い世代が参加します。

**P**

Public hall
公会堂

坊口町の地域住民が集まる施設です。公会堂内には、昔の写真や賞状などが飾られています。現在は住民の集会などに利用されていますが、かつては演劇などが行われたこともあったそうです。

**Q**

Quiet
静けさ

目をやると、田畑や山の緑広がる景色。耳を澄ますと、風が草木を揺らす音や虫の鳴き声がどこにも聞こえて来ます。ここ坊口町は、時の流れもどこかゆったりしているように感じられ、思わず深呼吸したくなります。

**R**

Rice
米

昼夜の寒暖差と、山から流れて来るミネラル豊富な水を生かした良質な米づくりが行われています。甘味の強さが特徴であり、安全でおいしい地元産米として地域内外の人々に親しまれています。

**S**

Shigasato 志賀郷の恵み

志賀郷北部農産の管理農地は、綾部市内久井町、金河内町、坊口町、仁和町、西方町の一部で、その本部は坊口町にあります。生産物は様々で、米や小麦、小豆をメインにしています。昔は黒豆の生産も盛んでした。

**T**

Tokubo 東光坊

坊口町周辺に伝わる名で、かつて存在したとされる小さな寺院、庵の呼称と考えられています。かつては東光坊山へお参りに行っていましたが、住民の高齢化もあり、観音堂近くで東光坊山の石を祀り、竹輪やお酒をお供えし、その名を残しています。

**U**

U-kikaki 雪かき

年によっては、12月から積雪に見舞われ、深い雪に覆われる日もあります。住民の高齢化が進み、雪かき作業には毎年苦労しているそうです。特に除雪車が入らない家の周りなどは大変。雪かきのお手伝いしてくれる方、ぜひ雪景色の坊口町へ！

**V**

Valley 谷

西から坊口・尾ノ内・山尾と3つの谷からなり、谷ごとに自治をしています。それぞれの谷は、山に囲まれた細長い地形に沿って集落と田畑が広がっており、湧水や谷筋の水を利用した昔ながらの農村景観や土地利用が残っています。

**W**

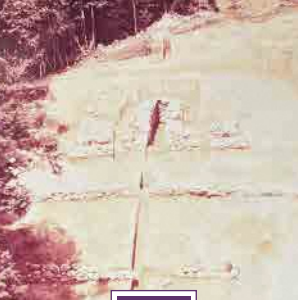
Water 水

山から湧き出る水を生活用水として利用しています。炭や石を詰めたろ過装置を使って、水を自然にろ過して家庭へ送る仕組みです。昔は飲み水としても使われていましたが、現在は生活用水に限って利用されています。

**X**

X 結びつき

坊口町では、年2回の春と夏に行われるお祭りや、秋の「道づくり」などの共同作業を通して、移住者と地元住民の強い結びつきが保たれています。また、公会堂や「陽だまり」では住民たちが交流を深めています。



Yamao Kofun 山尾古墳

山尾古墳は、古墳時代の終末期頃に築造された横穴式石室を内部主体とする方墳です。これらは1990年代に行われた、京都縦貫自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、発見されました。



Zyugai 獣害対策

山が近く、よく動物が下りてくるため、畑は獣害柵で囲まれています。シカやアライグマ、ハクビシンなど様々な獣が、柿などのおいしい農作物を狙っています。まちなかではこのような動物を見かけることも少なく、対策も減多にされていないのでとても新鮮です。



こぼれ話

大弓神事

1588年豊臣秀吉が出した刀狩令により、他の地域では殺傷能力のある刀、弓は農民から取り上げられました。しかし、当時の代官様は大弓神事の時農民が弓を持つことを許したため、古来から続く伝統が途切れることなく今でも執り行われています。

住民コメント



松井 基

青く澄みぎった空、そっとほほをなでていく風、谷間の川をせせらぐ美しい水、四季を通じて、米、野菜、果物を育て食する。自然豊かな山里…水源の里。そこで住民と移住者が協力、協働活動をすすめ、豊かな農地を守り、伝統と文化を守り、将来につながることを期待している。



志賀 清治

坊口町に生まれて76年、住みやすい村でした。しかし現在は若者が少なくなり、何か活気がでることがあったらいいけど、この歳になると思いつきません。何か有りませんか、思いつくのは昔のことぐらいです。



鳥居 麻夫

田舎生活で不人気な「村用」ですがコミュニケーションの場になっているという良い面もあります。会話や共同作業の中で理解し合えるのです。今後も祭りを中心として住民や関係者との交流ができる地域を持続して行きたいです。



河北 和孝

自然豊かな里である坊口町は、高齢化も進んでいますが、地域で里を「もりあげ」ようと頑張っています。|ターンの方も多く来られて、活気を付けていただいたり、地区行事にも積極的に参加してもらっています。今後も新しい目で地域をもりあげていただきたいと思います。



小西 秀測

兵庫県から坊口町に来て20年が経ち農業を営んでいます。自然災害や獣害対策、過疎化と厳しい状況ですが、谷あいの美しい里山風景の中で、これからもお米や野菜づくりができればいいですね。



坂根 博之



村田 勝彦

(フィールドワークにお付き合いいただきました)

学生コメント



安田 和奏

道沿いに見られた柿の木や古民家の風景から、自然と人の暮らしが近く、日常の中に自然が溶け込んでいると感じました。実際に坊口町を歩き、地域の人と話す中で、その温かさに触れ、坊口町への理解が深まりました。ぜひ一度、坊口町を訪れ、その空気に触れてみてください。



宇田 和沙

私は坊口町でのゼミ活動を通して、「新しい発見」の楽しさを再確認することができました。初めての場所で初めての方とお話をさせていただく機会は、私にとってとても貴重です。実際に坊口町を歩き、住民の方のお話を直接聞くことで得ることができた知識や、協力してくださった方々のぬくもりを忘れず、これからも沢山の経験を積んでいきたいと思っています。



原田 崇弘

インターネットなどで調べるだけでなく、実際に坊口町に訪れることで住民の皆さんの温かさ、自然の美しさ、大切に継承されている歴史を実際に感じることができました。坊口町の魅力を冊子にまとめたので最後まで読んでいただければ幸いです。



坂本 蓮奈

坊口町を訪れて、山と緑に囲まれ、四季の変化を身近に感じられる集落だと感じました。静かな環境の中に人の温かさがあり、とても落ち着くところです。この冊子を通して坊口町の魅力をお伝えできれば幸いです。



須和 栄心

坊口町を訪れ、実際に見たり住民の方々の話を聞いてみると、私たちと環境が全く違うことがわかりました。また、住民の方々の優しさや温かさに触れ心安ぎます。坊口町の良さがこの冊子を通してより多くの人に伝わると嬉しいです。



中川 颯太

坊口町での時間は、自然と文化、そして人の温かさが織りなす「層」の厚さを知る貴重な経験となりました。AからZまでの言葉を辿る旅は、まるで宝探しをするようでした。歴史ある観音堂や祭りの能面に触れる一方で、公会堂に集まる人々の笑顔や何気ない会話の中に、この地域の本当の強さを見た気がします。厳しい自然の中で、共に水を守り、米を作り、雪をかく。そんな助け合いの日常が、坊口町の風景を形作っています。冊子作りを終えたいま、坊口町の魅力とは、誰かが守り続けてきた一瞬一瞬の「営み」の結晶なのだと強く感じています。



中村 優斗

今回AtoZを通して初めて坊口町を訪れ、坊口町の人の温かさや豊かで美しい自然を知りました。普段の自分の生活とは全く異なることばかりで興味深いお話を多く聞くことができました。この活動を通して坊口町の魅力がより多くの人に伝わってほしいです。



田中 芹奈

作成する中で坊口町の多様な文化や人との結びつきの強さを実感しました。お話を聞き、地域の方々とともに冊子を作ることができて嬉しく思います。AtoZを通して、坊口町の魅力が多くの人に伝わってほしいです。



湯ノ口 大斗

今回のフィールドワークを通して、坊口町は自然・文化・人のつながりが重なり合う魅力的な地域だと感じました。AからZまでの言葉を手がかりに坊口町を見ていくことで、安産祈願の観音堂や火の神を祀る神社、能面や祭りなど、長い歴史の中で受け継がれてきた文化の重みを知ることができました。また、「陽だまり」や公会堂といった人が集まる場所の存在から、住民同士の結びつきの強さや、世代を超えた交流が日常の中にあることが印象に残りました。山や谷に囲まれた自然、豊かな水と米づくり、雪かきや祭りを通した共同作業など、坊口町では暮らしそのものが地域を支えていると感じました。AtoZ

冊子の作成を通して、坊口町の魅力は一つではなく、積み重なった営みの中にあることを実感しました。



神保 皓介

坊口町を初めて訪れた際、住民の方々が温かく迎えてくださり、とても居心地の良い地域だと感じました。AtoZを作成していく中で、より地域のことについて知ることができました。この冊子を通じて、坊口町のことを多くの方に知ってもらえると嬉しいです。



長谷川 颯汰

坊口町を訪れ地域の方の暮らしに触れる中で、集落の伝統や人との繋がりが大切に守られてきた場所だということを感じました。この冊子を通して、坊口町の魅力や温かな雰囲気伝わればと思います。ぜひ一度訪れてみてください。



滋野 浩毅 (京都産業大学 教授)

坊口町で最初に心奪われたのは、山と谷のコントラストがくっきりとわかる航空写真と、かつて住民たちの住まいと顔写真で描いた「住民写真図絵」、そして集落のお宝である「能面」(京都府指定文化財)でした。でもそれだけにとどまらず、観音堂、長松寺、岳山を望む風景など、地形同様、奥深さあふれる集落だと思いました。